

法医学（同実習を含む）

Legal Medicine

シリーズ・実習責任者：法医学 教授 向井 敏二

1. シリーズ概要・学習内容

法医学の基礎知識を講義および実習により教育し、将来、臨床医として遭遇するであろう各種法的事案に対する判断・対応能力を養う。

講義では、スライドやビデオ映写による実例供覧を多用することで講義内容の理解を深め、各種法的事案に遭遇した場合の判断力を養う。また実習では、血液型検査、死亡診断書・死体検案書作成、死体取扱いの実際等を体験させることにより、将来臨床医として適切に対応できる力を修得させる。

2. 到達目標

- 1) 医学・医療における法的諸問題を列挙し概要を説明できる。
- 2) 各種損傷の特徴を挙げその成傷機序を述べることができる。
- 3) 各種薬毒物の中毒機序と身体所見を述べるができる。
- 4) 各種個人識別法の有用性と留意点を比較して説明できる。
- 5) 家庭内虐待の現状を把握し、医師として適切に処理できる。
- 6) 医療関連死の概念を理解し、医師として適切に対応できる。
- 7) 死の概念を理解し、死因と死因の種類を適切に選択できる。
- 8) 異状死体とは何かを理解し、適切な死体検案が実践できる。
- 9) 本邦の死因究明制度の概要と問題点について説明できる。
- 10) 各種事例の死亡診断書（死体検案書）を正しく作成できる。
- 11) 医事関連法律の主旨を正しく理解してこれを遵守できる。
- 12) 異状死体に対する医師の役割を理解し正しく対応できる。

3. 学習上の注意点

法医学の分野は法改正などにより常に最新の情報を得る必要があり、また、創傷所見の把握は既出版物だけでなく写真教材による学習が重要となることから、基本的には講義資料（スライド・Web 配信資料）を中心に学習すること。特に、後半に予定される「本邦の死因究明制度」「死体検案」「異状死体の判断」「死亡診断書・死体検案書」の一連の流れについては、その基本を理解しないと個々の事例に適確な対応ができないので、講義および実習を通じて一生使える知識となるようしっかり学習することを期待する。

4. 教科書・参考書

教科書：指定なし

参考書：

『臨床法医学テキスト 第2版』 佐藤喜宣編（中外医学社）：法医学の各分野で必要な知識を十分にまとめている。特に銃器損傷の項は講義の補助として役立つだろう。

『法医学 第3版』 福島弘文（南山堂）：上記と同様、法医学の必須知識をわかりやすくまとめている。紹介した3冊のなかで発行年度が最も新しい（2015年改訂）。

『NEW エッセンシャル法医学 第5版』 高取健彦他（医歯薬出版）：小型でカラー写真や図も多く、実際の検案時に携帯して参考にするタイプの本。

5. 成績評価

評価項目	実施回数	評価割合	備考
定期試験	1	100 (%)	客観試験（多肢選択方式）・論述試験
	—	—	欠席回数・受講態度に応じて減点する。

当コースでは講義への出席を重視しているため、欠席率の高い学生に対して学期末に特別試験を課すことがある。

6. オフィスアワー

所属	役職	氏名	時間	場所	連絡先
法医学	教授	向井敏二	月～金曜日 (昼休み・放課後)	医学部本館5階 法医学教室	内線 3556 (tmukai)
法医学	准教授	呂 彩子	月・火・木・金曜日 (昼休み・放課後)	同上	同上 (chaeja)
法医学	特任准教授	千葉正悦	月～金曜日 (昼休み・放課後)	同上	同上 (chiba)

メールアドレスは @marianna-u.ac.jp が省略